

千葉県野田市・茨城県守谷市における 越冬期のオウチュウ *Dicrurus macrocercus* の観察記録

岩田光二¹・小田谷嘉弥^{2,*}

キーワード：オウチュウ, *Dicrurus macrocercus*,
関東地方, 越冬地.

種名・観察個体数：オウチュウ *Dicrurus macrocercus*
1羽.

観察者名：岩田光二ほか2名

観察日時・場所：

2014年1月2日に第一著者らによって発見された。
35° 57'24"N 139° 55'60"E 付近の農耕地. 茨城県野
田市木野崎の農耕地で発見されたのち, 約500mほ
ど離れた茨城県守谷市大木の農耕地へ移動した. 翌1
月3日には観察されず, それ以降も観察されなかった.

観察距離：

約120mの距離で発見し, 8倍の双眼鏡を用いて観
察した. 撮影は600mmの望遠レンズを取り付けたデ
ジタル一眼レフカメラで行い, 撮影距離は約50m以
上であった.

観察した環境：

観察地は利根川と鬼怒川の合流点から2kmほど上
流の左岸側に位置する農耕地である. 本個体は, オ
オブタクサ *Ambrosia trifida* やセイタカアワダチソウ
Solidago altissima の生育する草地, 家畜の糞が積ま
れた堆肥置き場, 採草地, および水田が点在する環境
で観察された.

形態に関する記述：

本個体(図1-3)は, 一見して全身が黒色であっ
た. 同時に観察されたハシボソガラス *Corvus corone*
orientalis よりもはるかに小さく細身であり, ヒヨドリ
Hypsipetes amaurotis くらいの大ささに感じられ
た. 嘴は黒色で直線的であり大きな湾曲は認められ
ず, 口角部分には小さい白斑が認められた(図1).
頭部は黒色で冠羽はなく, 虹彩は赤みのある暗褐色に

見えたが, 遠方のためはっきりと分からなかった(図
1-3). 胸から腹の中央部の各羽の羽縁は淡色で, 下尾
筒の各羽先端にはやや幅広い白色部があった(図1).
体および翼上面は全体的に黒色だったが, 肩羽や頭部
は光沢のある黒色である一方, 風切羽, 尾羽および大
部分の雨覆は褐色味を帯びていた(図2). 内側1枚
の大雨覆は光沢のある羽毛に換羽しており, 外側の褐
色味を帯びた羽毛との間にはコントラストが認めら
れた(図2). 尾は長く深い凹尾であり, 外側尾羽は
わずかに背面方向に向かって湾曲していた(図1-2).
各尾羽の先端は尖ってやや摩耗しており(図1-3),
特に最外側尾羽には羽枝の折れが認められた(図1).
尾羽の下面及び先端は一律な黒褐色で無斑であった
(図1). 尾羽は片側5枚であり(図3), 顕著な脱落
が見られないため全体では10枚であると考えられた.
上尾筒には周りの体羽よりも明らかに褪色の進んだ羽
毛が数枚認められた(図3). 脚は黒色でやや太く見
えた(図3). 翼下面の翼角部分と下初列雨覆の先端
には白斑があった(図3)

種を同定した規準：

全体的な体色, 大きさ, 尾の形状と枚数より, 本個
体はオウチュウ科 Dicruridae オウチュウ属 *Dicrurus*
の鳥類であると考えられる(del Hoyo et al. 2009).
本稿では, まず本個体の年齢について検討した後に,
国内で記録のある(日本鳥学会2012), オウチュウ,
ハイイロオウチュウ *D. leucophaeus*, カンムリオウ
チュウ *D. hottentottus* および, 国内からは未記録で
あるものの類似しているヒメオウチュウ *D. aeneus*
についても検討した. また, オウチュウ科ではない
が, 形態が類似するオウチュウカツコウ *Surniculus*
lugubris についても検討した.

オウチュウ科鳥類の成鳥は年に一度完全換羽する
が, 幼鳥の幼羽後換羽は部分換羽である(del Hoyo
et al. 2009). 本個体が観察された1月の時点で, 翼
と体羽において新羽と未換羽の旧羽との間にコントラ
ストが認められたため, 風切, 尾羽, 雨覆の一部, 体

1 〒270-1145 千葉県我孫子市高野山234-3 我孫子市鳥の博物館友の会

2 〒270-1145 千葉県我孫子市高野山234-3 我孫子市鳥の博物館 *Email:ody448@gmail.com

(受理:2017年4月29日)

羽の一部の旧羽は幼羽と推定される (del Hoyo et al. 2009; Brazil 2009). また、胸から腹、下尾筒の羽毛の先端に白斑が認められることから、この部分も幼羽である (del Hoyo et al. 2009; Brazil 2009). そのため本個体は前年生まれの第一回冬羽と考えられる。

ハイイロオウチュウは 14 の亜種を持つ多型種である (del Hoyo et al. 2009). 国内で記録のある亜種 *leucogenis* は全身が灰色で目の周囲が淡色であるため明らかに本個体とは異なるが、国内未記録の亜種 *longicaudatus* を含む数亜種は全身が黒色で本個体に類似する (del Hoyo et al. 2009). しかし、本個体の口角には白斑があること、ハイイロオウチュウでは尾の切れ込みがより深いことから異なる (del Hoyo et al. 2009; Brazil 2009). カンムリオウチュウは尾羽が太く、著しく外側に湾曲し、嘴が長大で先端が下湾するが (Brazil 2009), 本個体の特徴とは一致しない。また、本個体に冠羽がない点もカンムリオウチュウとは一致しない。ヒメオウチュウは、尾羽の切れ込みがより浅く、嘴は短い (Brazil 2009). これらの特徴は本個体とは一致しない。オウチュウカッコウは、下尾筒に白斑がある点が本個体と一致する。しかし、嘴は下湾し、尾羽の下面や先端に白斑がある点で本個体と一致しない (Brazil 2009).

以上に検討したすべての種は本個体の特徴と一致しなかったが、オウチュウの第一回冬羽の記載 (del Hoyo et al. 2009; Brazil 2009) は、本個体の嘴、尾の形状と枚数、虹彩色、頭部の光沢、体下面の色彩の特徴とよく一致した。よって本個体はオウチュウであると考えられる。

日本国内に渡来するオウチュウの亜種は不明とされている (日本鳥学会 2012) が、宮・高橋 (2012) は、形態から青森県に渡来したのは亜種 *cathoecus* の可能性が高いと推定している。Brazil (2009) も日本に渡来する亜種は *cathoecus* としている。Rocamora & Yeatman-Berthelot (2017) によるとオウチュウには 7 亜種が知られるが、主に大きさと虹彩色、および嘴基部の白斑の大きさにわずかな違いがあるのみである。本個体は、計測値の情報が得られておらず、第一回冬羽であることから虹彩色が識別点とならないために (Vaurie 1949), 亜種の識別を行うことは出来なかったが、嘴基部の白斑が比較的明瞭であることから、基亜種 *macrocerus*, 亜種 *albirictus* および亜種 *cathoecus* の可能性が示唆される (Rocamora & Yeatman-Berthelot 2017). ただし、Vaurie (1949)

は亜種 *minor* についても嘴基部の白斑が明瞭であると記述している。

観察した行動：

発見時には、堆肥置き場の地上に降りたハシボソガラス 20 羽前後の群れの中に降りていた。本個体は農耕地内を移動しながら採食行動を行っており、枯れた植生の上や堆肥置き場の牛糞の上に止まり休息及びフライングキャッチを数回確認出来た。ハシボソガラスや他種との争いは観察できなかった。また、鳴き声は聞かれなかった。

過去の記録とその文献：

オウチュウは 1976 年 4 月 13 日に沖縄県西表島で観察されて以来、南西諸島や日本海側の島嶼を中心として記録がある (高野ら 1981; 日本鳥学会 2012). 関東地方においては、群馬県、埼玉県、千葉県において記録されている (日本鳥学会 2012). 日本野鳥の会群馬 (2014) によると、群馬県では 6 月に 2 例、9 月に 1 例の合計 3 例の記録がある。千葉県では 1991 年 12 月に睦沢町で観察されている (千葉県史料研究財団 2002) ほか、千葉県柏市水道橋付近において 2009 年 3 月 1 日に観察されている (松村伸夫 私信). 埼玉県では、6 月に 2 例の記録がある (無記名 2005; 無記名 2007). また、日本鳥学会 (2012) に未掲載の県における記録として、日本野鳥の会神奈川支部 (2013) によると、神奈川県内では 7 月と 10 月に 1 例ずつの記録、桜井・渡部 (2012) は、10 月の東京都神津島での記録を報告している。茨城県においては過去に記録されていない (茨城県 2002). 越冬期の記録は全国的に少ないが、愛知県刈谷市で 12 月に観察された記録がある (西三河野鳥の会愛知県鳥類検討委員会 2008).

考察：

過去の関東地方におけるオウチュウの記録は秋の渡り時期もしくは春から夏にかけてのものが多く、越冬期における証拠のあるものは 1 例のみである。よって本報告は関東地方における越冬期の証拠のある第 2 記録であり、茨城県における初記録であると考えられる。越冬期における過去の国内の記録は、千葉県と愛知県の各 1 例ずつしか確認できず、現時点ではわずかな記録しかないものと思われる。オウチュウの国内への渡来数は近年増加しており (日本鳥学会 2012), 分布

を東側に拡大していることが示唆される。そのため、国内での越冬期の記録も今後増加する可能性がある。

謝辞：

本稿を取りまとめるにあたり、松村伸夫氏には千葉県柏市での観察情報をご教示いただいた。池長裕史氏、五百澤日丸氏、桑原和之氏には過去の記録について文献をご教示いただいた。山階鳥類研究所の鶴見みや古氏には文献の閲覧に当たり便宜を図っていただいた。以上の方々に深くお礼を申し上げる。

引用文献：

Brazil M (2009) *Birds of East Asia*. Princeton university press, Princeton.

千葉県史料研究財団（編）(2002) 千葉県の自然誌 本編 6 千葉県の動物 1 陸と淡水の動物. 千葉県, 千葉.

del Hoyo J, Elliott A & Christie D eds.(2009) *Handbook of the Birds of the World. Vol.14. Bush-shrikes to Old World Sparrows*. Lynx edition, Barcelona.

日本鳥学会（2012）日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会, 三田.

日本野鳥の会群馬（2014）群馬県鳥類目録 2012. 日本野鳥の会群馬, 高崎.

日本野鳥の会茨城支部（2002）茨城県野生鳥獣生息分布調査報告書（平成 12・13 年度）. 茨城県生活環境部環境政策課, 水戸.

日本野鳥の会神奈川支部（2013）神奈川の鳥 2006-10 神奈川県鳥類目録VI. 日本野鳥の会神奈川支部, 横浜.

西三河野鳥の会愛知県鳥類検討委員会（2008）愛知県内における鳥類の観察記録 2. 西三河野鳥の会研究年報 11: 44-47.

宮 彰男・高橋雅雄（2012）青森県におけるオウチュウ *Dicrurus macrocercus* の初記録. *Strix* 28: 105-108.

無記名（2005）支部野鳥記録委員会の最新情報 オウチュウを県内初記録種として追加. *しらこぼと* 257: 5.

無記名（2007）ネイチャーインフォメーション～あなたの出会った生きものたち～. *ナチュラルアイ* 2007 年 8 月号: 8-9.

Rocamora G & Yeatman-Berthelot D (2017) Black Drongo (*Dicrurus macrocercus*). In: del Hoyo J, Elliott A, Sargatal J, Christie DA & de Juana E (eds.). *Handbook of the Birds of the World Alive*. Lynx Edicions, Barcelona. (オンライン <http://>

www.hbw.com/node/60590 accessed:2017-3-1). 桜井基計・渡部良樹（2012）神津島でのオウチュウの東京都初記録. *ゆりかもめ* 676:15.

高野伸二・叶内拓哉・森岡照明（1981）カラー写真による日本産鳥類図鑑. 東海大学出版会. 東京.

Vaurie C (1949) A revision of the bird family Dicruridae. *Bulletin of the American Museum of Natural History* 93(4):199-342.



図1. 千葉県野田市および茨城県守谷市で観察されたオウチュウ。頭部の形態、体下面の色彩と尾羽の形状がわかる(2014年1月2日, 撮影: 岩田光二).

Fig. 1. The Black Drongo observed in Noda City, Chiba prefecture and Moriya City, Ibaraki prefecture. Note the morphology of head, coloration of underparts and the shape of the tail. 2 January 2014. Photograph by K. Iwata.



図3. 千葉県野田市および茨城県守谷市で観察されたオウチュウ。翼下面の色彩, 尾羽の枚数, 上尾筒の幼羽がわかる(2014年1月2日, 撮影: 岩田光二).

Fig. 3. The Black Drongo observed in Noda City, Chiba prefecture and Moriya City, Ibaraki prefecture. Note the coloration of underwing, number of the rectrices and juvenile feather on uppertail coverts. 2 January 2014. Photograph by K. Iwata.



図2. 千葉県野田市および茨城県守谷市で観察されたオウチュウ。体上面の色彩がわかる(2014年1月2日, 撮影: 岩田光二).

Fig. 2. The Black Drongo observed in Noda City, Chiba prefecture and Moriya City, Ibaraki prefecture. Note the coloration of upperparts. 2 January 2014. Photograph by K. Iwata

Observation record of Black Drongo *Dicrurus macrocercus* during the wintering season
in Noda City, Chiba prefecture and Moriya City, Ibaraki prefecture.

Yoshiya Odaya

Abiko City Museum of Birds, 234-3, Konoyama, Abiko city, Chiba prefecture, Japan

Summary

A first-winter Black Drongo *Dicrurus macrocercus* was observed in boundary agricultural area between Noda City, Chiba prefecture and Moriya City, Ibaraki prefecture. The individual was seen only in January 2nd 2014. This observation record represents the first and third record for Ibaraki and Chiba prefecture, respectively.

Key Words: Black Drongo, *Dicrurus macrocercus*, Kanto region, Wintering season.